

令和7年 第5回 伊丹市議会 定例会

請 願 文 書 表

受 理 番 号	第 2 号
受 理 年 月 日	令和7年12月2日
件 名	伊丹市内の学校園所における化学物質過敏症等に対するさらなる理解の推進を求める請願
請 願 者 の 住 所 及 び 氏 名	伊丹市
請 願 の 要 旨	別 紙
紹 介 議 員 名	伊丹維新の会 齊藤 真治 フォーラム伊丹 山藺 有理 高塚 伴子 加柴 扶美
付 託 委 員 会 名	文教福祉常任委員会

令和7年12月2日

伊丹市議会議長

加 藤 光 博 様

請 願 者

住 所 伊丹市

氏 名

紹 介 議 員 伊丹維新の会 齊藤 真治

紹 介 議 員 フォーラム伊丹 山藺 有理

紹 介 議 員 高塚 伴子

紹 介 議 員 加柴 扶美

伊丹市内の学校園所における化学物質過敏症等に対する
さらなる理解の推進を求める請願

【請願趣旨】

消費者団体などが、2024年度に全国9都道府県21自治体の未就学児約2千人・小中学生約8千人を対象におこなった調査によると、柔軟剤や香料の成分によって、頭痛や吐き気など体調不良を経験した子どもは8.3%（小中学生では10.1%）にのぼりました。この結果は、香料による体調不良が特定の子の問題ではなく、一定の割合で存在することを示しています。

伊丹市は「命と人権を大切にする」姿勢を掲げ、すべての子どもが安心して過ごせる教育環境づくりを目指しています。学校の空気環境は、学習意欲・集中力・体調など、子どもたちにとって重要な要素です。

また、今は症状がはっきりと表れていない方も近い将来、花粉症のように発症することが認められ、歳を重ねるごとに化学物質過敏症の方は確実に増えており、この対応は化学物質過敏症の方だけの問題ではなく、すべての方が発症する可能性があることが研究から示されています。

全ての子どもの健康と学習権を守るため、また保護者や教育関係者が相互に理解し合うため、以下の事項を請願いたします。

1. 香料の成分による体調不良や化学物質に関する基本情報について、市内の学校園所に

通う子ども・保護者・教職員が学べるさらなる機会を設けてください。

2. 市内学校園所で実施される健康診断において、化学物質や香料の成分による体調不良に関する項目を追加してください。

（例：香料や特定の化学物質で頭痛・咳・吐き気等の症状が出たことがあるかなど）

3. 子どもが利用する公共施設でも、香料の成分による様々な体調不良の可能性と配慮に関するさらなる情報提供を進め、職員や利用者にポスター掲示やアンケートなどいっそうの理解促進の機会を設けてください。